

## 「火山はすごい 日本列島の自然学」について

林 信太郎\*

On “Volcano is Magnificent! —Natural Science of the Japanese Islands”

Shintaro HAYASHI\*

新しいコンセプトの火山の本が出版された。本書は、タイトルも内容もユニークである。火山学者である鎌田浩毅さんが書いたのに、火山の専門書でも教科書でもない。しかも、想定されている読者はビジネスマン・大学生・主婦などである。内容はわかりやすく、しかも幅広い。では、構成を見ていこう。

[プロローグ]: 詩の形式を借りて、本書執筆の動機が述べられている。成り行きで火山学者になってしまった私としてはおおいに共感するところがある。[第1章 阿蘇山—火山学者漱石誕生!?: 筆者と火山との出会いから始まり、阿蘇火山のわかりやすい解説がそれに続く。[第2章 富士山—美しさも期間限定?]: 最近、低周波地震が起きて話題になった富士山に関する章である。富士山の歴史噴火、噴火したときの首都圏への影響、ハザードマップの作成について述べられている。[第3章 雲仙普賢岳—自然は人知をこえている]: 火砕流で犠牲者が出た1991年の雲仙火山の噴火の経緯と亡くなった3人の火山学者のエピソード、火山災害の危機管理などについて書かれている。[第4章 有珠山—噴火予知成功!]: 有珠山2000年噴火の経緯、噴火予知の方法に関する解説、エコミュージアムについて述べられている。[第5章 三宅島の七不思議]: 火山学者にも予想外のことが起こった三宅山2000年噴火についての解説。「火山学者のことばの重さ」という節は議論を呼び起こすだろう。[エピローグ—火山はおもしろい]: 自然科学者がわかりやすい言葉で語るの意味について述べられている。

この本のすぐれた特徴の一つは、その巧みなしかもさりげないレトリックであろう。例えば、火山性異常につ

いて解説した富士山の章で、「低周波地震が起きた場合、…一瞬緊張する」(72ページ)「火山性微動が観測された場合には…今度は本当に緊張する」(74ページ)、とあるのが印象的である。

また、岩なだれという破局的な災害についても、「富士山の歴史の中でも非常にまれな現象ではある。よって、いたずらに恐れる必要はまったくないが、富士山には大災害の歴史があることを知っておくことは、悪くはないだろう」(81ページ)と、説明責任を果たしながらも、オブラートに包んだように、うまく表現している。本書はレトリックの参考のためだけでも、一読の価値がある。

さて、この本はどのように利用すれば良いのだろうか? 最近話題になった噴火などは、この本を読めば大まかなところは理解できるので、授業の副読本として有用である。実際に授業で使用したところ、学生の火山に対する基礎知識は明らかに増大し、効果的だった。

しかし、もっと有効な使用法は、参加型授業に使用して、学生に討論の材料を提供することだろう。もしかすると、日本の火山学者の中には、本書の考え方に同意しない方がいるかも知れない。しかし、本書では、はっきりと鎌田氏個人の意見が示されているので、活発な討論を呼び起こす材料として価値があると考えられる。

そこで本書から得られる討論の材料の例として次のようなものはいかがだろうか?: 「破局的かつまれな現象についての情報は住民に提供すべきかどうか?」「インターネット時代の火山情報リテラシーとは何か?」「雲仙火山ではなぜ災害を防ぐことができなかったか?」「フェールセーフの考え方と生活の場の確保との間にどう折り合いをつけるべきか?」このような討論は、学生のコミュニケーションスキルや火山防災に対する意識の向上に寄与することだろう。

以上挙げたいくつかの理由により、評者は本書と本書を使った授業を会員の皆様にも勧めます。

\* 〒010-8502 秋田市手形学園町 1-1  
秋田大学教育文化学部地学研究室  
Department of Earth Sciences, Faculty of Education  
and Human Studies, Akita University, 1-1 Tegata-  
Gakuen-cho, Akita 010-8502, Japan.  
e-mail: hayashi@ipc.akita-u.ac.jp